

1 日時 平成 年5月16日(水) 第3校時 5年1組教室

2 単元名 『米袋から見えるお米のふるさと』(10時間扱い/本時は第6時)

3 単元の目標

(1) 総括目標 自然環境を生かして米づくりに取り組む人々の工夫や努力、消費地までの運輸の働きを調べ、米づくりが自然環境と深い関わりをもって営まれていることと食生活にとって重要な役割をもっていることを考える。

(2) 目標の構想図・評価規準

ねらい：庄内平野で自然環境を生かして米づくりに取り組む人々の工夫や努力、消費地までの運輸の働きを調べ、米づくりが自然環境と深い関わりをもって営まれていることと食生活にとって重要な役割をもっていることを考える。				
	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
問題を つかむ	・自分の家で食べている米の銘柄調べや米の販売店での米袋調べから産地や稲作農家への関心をもつ	→	・庄内平野で米づくりのさかんな理由を、水田の航空写真、平均気温、日照時間の図表などから読み取る。	
問題を 解決する		↓	・10aあたりの米の収量が増えた理由について、苗づくりや水の管理、土づくり、品種改良など農家の人々の努力を読み取り、レポート等にまとめる。	
まとめ		←		・生産地から消費地までを結ぶ輸送の働きが分かる。
評価規準表				
B	・情報を収集し、米づくりや輸送に関心をもって、農家や輸送従事者等の工夫や努力を調べることができる。	・米づくりが自然環境と深い関わりをもって営まれていることを考えることができる。	・資料から事実を読み取り、米づくりの工夫や努力に対する自分の考えを織り交ぜてまとめることができる。	・農業に関わる様々な人々が自然環境を生かしておいしく安全な米を生産し、運輸に携わる人々と協力して、消費地に届けていることが分かる。

4 単元と子ども

(1) 社会的な思考についての子どもの実態

各自がお米の袋を持ち寄ってよく観察すると「種類(コシヒカリなど)が同じでも、商品名が違う」「お米は新潟産が多い」など様々なことに気づいた。またこの袋から「なぜ作った人の名前が書いてあるのか?」「どうして同じ種類なのに、作っている場所が違うのか?」などの疑問が生まれた。こうした疑問を班単位で話し合ったところ意欲的に話し合い、自分たちの考えを持つことができた。

(2) 教材について

教材の価値(本質)

わが国の農業や水産業について、主な食糧生産物の分布や土地利用の特色、食糧生産に従事している人々の工夫や努力などを理解することで、わが国の食糧生産について関心が持てるようにしたい。また農業や水産業の食料生産が、国民の食生活を支えていることや自然環境と深いかわりを持っていることに気づかせたい。

教材と子どもとの接点

米は子どもたちにとって身近なものである。米粒、ご飯、米の袋、田んぼ、藁など日常的に接するものが多くある。こうした身近で目に見える具体的なモノから学習を進め、その背後にある見えない事象(土地利用の特色、農家の人々の工夫や努力など)に目を向けさせていきたい。

5 単元構想 ...研修テーマに迫るために、この単元で工夫したこと

研修テーマ「自ら学びとっていく子」(生き生きと目を輝かせる・自分の考えを持ち、授業に参画しようとする)に迫るために、次の二つの手だてを取り入れた。

(1) 学習問題づくり(仮説1)

米の袋や田んぼの写真など、一人一人がよく見て観察できるような資料を提示し「思ったこと、わかったこと」を出す。次に「はては?」と思う疑問を作り、その疑問を班別学習で出し合い答えを考える。班では解決しなかった問題を全体の場に出し、学級全員で学習していく学習問題にする。

(2) 具体的な作業を通して考えさせる(仮説2)

「米袋」「一枚の写真」「消しゴムトラクター」といった身近で目に見える具体的なモノから学習を始める。そのとき「米袋の観察」や「写真を見て気づくこと」「消しゴムトラクターを動かす」という具体物を手にして誰もが考えを持てるような場を保证する。具体的な作業を通して考えさせた気づきはノートに記録させる。これが次の学習段階で共通の基盤になる。

そうした共通基盤をもとに、具体物の背後にある見えない事象(本単元では米づくりの工夫、苦労)に迫っていく。個々のあらわれを見取った座席表などを使いながら、学級全体を高めていきたい。